

令和3年度

# 地域に根ざした木造住宅 施工技術体制整備事業 静岡大工育成

	開催日／西部会場	開催日／東部会場	講習内容
第1回	磐田 7/6 火	富士 7/8 木	<p>■座学(午前中)／木造住宅の構造と架構と力の流れ            ①日々の作業の振り返りについて ②建方現場での施工の確認            ③間取りと木造在来軸組の概要について ④現場での寸法(板図と尺杖)について</p> <p>■実技(午後)／住宅の性能と架構 実技の基本            ①道具の取扱い ②手工具・電動工具など ③継手・仕口と墨付・加工</p>
第2回	磐田 7/20 火	富士 7/29 木	<p>■座学(午前中)／木造住宅の性能            ①建築基準法・関連法令 ②木造住宅の品質に関わる制度について            ③フラット35 木造住宅の標準仕様書などについて ④仕様と規定それらの関係性について</p> <p>■実技(午後)／住宅の性能と架構 実技の基本            ①大玄能・叩き鑿・カンナ・キワガナ・墨壺・墨差し・砥石・サシガネについて</p>
第3回	磐田 8/10 火	富士 8/12 木	<p>■実物件の墨付け研修及び住宅の性能と下地研修会            ①矩計棒(献竿)・原寸型板(板図)作成 ②蟻継ぎ(蟻ほぞ)・カマ継ぎの墨付け            ③内部の性能と仕様(床・内壁・天井・設備・断熱材)について</p>
第4回	磐田 8/24 火	富士 8/26 木	<p>■実物件の墨付け研修及び住宅の性能と下地研修会            ①蟻継ぎ(蟻ほぞ)・カマ継ぎの墨付け ②施工工程            ③断熱・気密の仕様と性能 ④仕上材の種類・違いと下地・納まり</p>
第5回	磐田 9/7 火	富士 9/9 木	<p>■実物件の墨付け研修及び住宅の性能と下地研修会            ①蟻継ぎ(蟻ほぞ)・カマ継ぎの墨付け ②断熱・気密施工 ③内部下地施工(床・内壁・天井)</p>
第6回	磐田 9/21 火	富士 9/23 木	<p>■実物件の手刻み研修及び住宅の性能と下地研修会            ①土台・柱の手刻み加工 ②外部の性能と仕様(開口部・外壁・屋根)について            ③仕上材の種類及び下地・納まりについて</p>
第7回	磐田 10/5 火	富士 10/7 木	<p>■実物件の手刻み研修及び住宅の性能と下地研修会            ①土台・柱の手刻み加工 ②開口部施工について ③外部下地施工(屋根・外壁)について</p>
第8回	磐田 10/19 火	富士 10/21 木	<p>■実物件の建て方研修及び住宅の性能と仕上げ研修会            ①柱・梁桁の手刻み加工 ②番付・建て方手順について ③屋根の形状と屋根仕上について            ④通気工法について ⑤外部仕上材(屋根廻り・外壁・軒天)の種類と性能と納まりについて</p>
第9回	磐田 11/9 火	富士 11/11 木	<p>■実物件の建て方研修及び住宅の性能と仕上げ研修会            ①柱・梁桁・母屋・束の手刻み加工 ②外部仕上の施工(屋根廻り)について            ③外部仕上の施工(外壁・軒天)について ④金物の性能及び取り付けについて</p>
第10回	磐田 11/23 火	富士 11/25 木	<p>■実物件の補修研修及び住宅の性能と仕上げ研修会(増改築対応)            ①母屋・垂木・筋交い・間柱加工 ②解体時の注意について            ③増築時の梁桁の寸法基準について ④補強について</p>
第11回	磐田 12/7 火	富士 12/9 木	<p>■実物件の建て方研修(1日目)            ①建て方研修 ②内部仕上げの施工(断熱材・無垢床) ③外部仕上の施工(屋根廻り)</p>
第12回	磐田 12/21 火	富士 12/23 木	<p>■実物件の建て方研修(2日目)            ①建て方研修 ②外部仕上の施工(外壁・軒天・防水) ③金物の性能及び取り付け</p>
第13回	1月開催予定	1月開催予定	■労働安全衛生法(雇用時安全衛生教育)
第14回	1月開催予定	1月開催予定	■多能工対応研修会(外壁・クロス・設備機器取付実習)

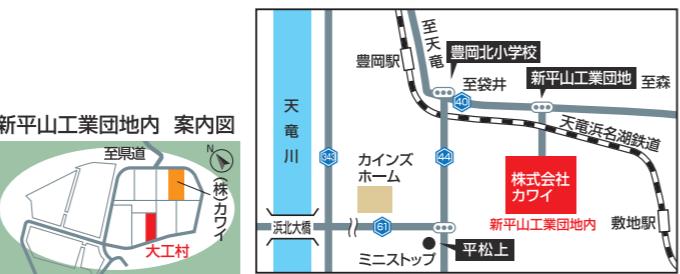
## 会場 MAP

富士市 株式会社マルダイ



〒417-8580 富士市大渕2410-1  
TEL 0545-35-3535

磐田市 株式会社カワイ 大工村



〒438-0114 磐田市合代島1212(新平山工業団地内 大工村)  
TEL 0539-62-565

国土交通省補助事業:地域に根ざした木造住宅施工技術体制整備事業

# 大工の 棟梁になろう

将来必要とされる大工職を  
仕事にしませんか?



募集

## 新人・若手大工研修会

募集対象 大工職を目指したい方 / 大工経験1~3年の方

研修内容 座学研修 2 講座 + 実技研修 10 講座(計12講座)  
(2021年7月～2022年1月の期間中)

■チームになり墨付け・手刻み・建て方の実践実技講座  
木造9坪の建物の墨付け、手刻み研修など

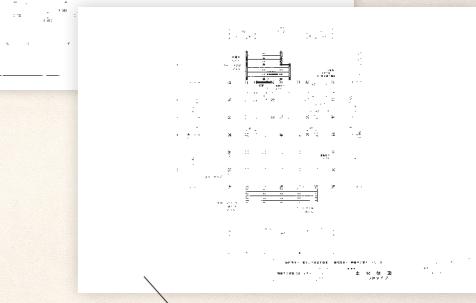
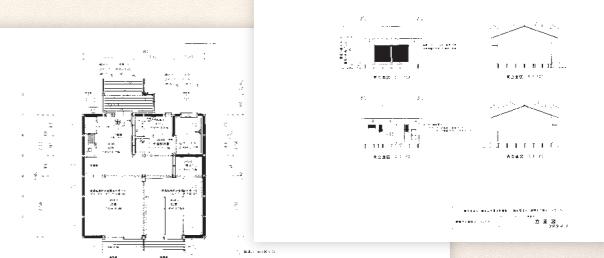
募集人数 東部地区10名 / 西部地区10名限定

研修費用 12,000円 / 1年間  
(合計10,000円のテキスト5種類を含む)

応募方法 「研修申込用紙」に必要事項を記入の上  
「一般社団法人 富士山木造住宅協会 事務局」へ  
FAX / Email / QRコード いずれかでご応募下さい。



開催場所 東部：富士市【株式会社 マルダイ】 \*裏表紙に地図を掲載  
西部：磐田市【株式会社 カワイ】



研修で実際に使用する図面

主催／静岡大工育成 (一社)富士山木造住宅協会・(一社)静岡木の家ネットワーク

お問い合わせ／一般社団法人 富士山木造住宅協会 TEL 0545-35-3003 FAX 0545-35-3569 Email : info@fuji-jbn.com

なぜ今「大工育成」が必要とされているのか？

# 静岡大工育成 Project

## 1 事業の目的

the purpose

国勢調査によると国内の大工人口は1995年の76万人から減少幅が増加、15年には35万人まで減少。野村総合研究所(NRI)では、30年の大工の人数は21万人にまで減少すると試算し、このまま行くと住宅供給に支障が出かねない。施工現場での人手確保が急務になりつつある中、各工務店での対応が難しいため、静岡県内の工務店2団体とコラボレートして講師や研修用資材などを提供し、大工育成に力を入れる。

## 2 事業計画

the plans

木造技能者育成検討委員会が設定している「レベル1」を目標とする「木造軸組み在来工法」を対象にした12工程のカリキュラムを組み込んだ研修会を、静岡県西部(静岡木の家ネットワーク)と静岡県東部(富士山木造住宅協会)の主催の下で開催する。

## 3 事業の必要性

the necessity

- ①大工の心得を身につけることが必要となる
- ②現在の業務を振りりつつ、その施工法や寸法の裏づけを知ることで、現在の業務に生かすことが必要となる
- ③機械化された作業の中で失われつつある「墨付け・手刻み」を養うことが必要となる
- ④大工仕事周辺の幅広い技術を見につけ「新しいこれからの大工」へ第一歩とすることが必要となる

上記4点の内容から、これらの課題に対応したカリキュラムで研修を実施するため、本事業は必要である。

## 昨年度の実績

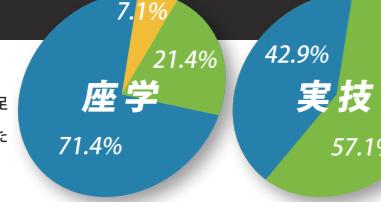
### 全12講座で図面から建造物を制作！



研修で実際に  
使用した図面

#### 研修生の声

■新しい知識を得て満足  
■知りたかった内容で満足  
■知っている内容もあった  
■物足りなかった



知識や技術を深める。

## Check Point

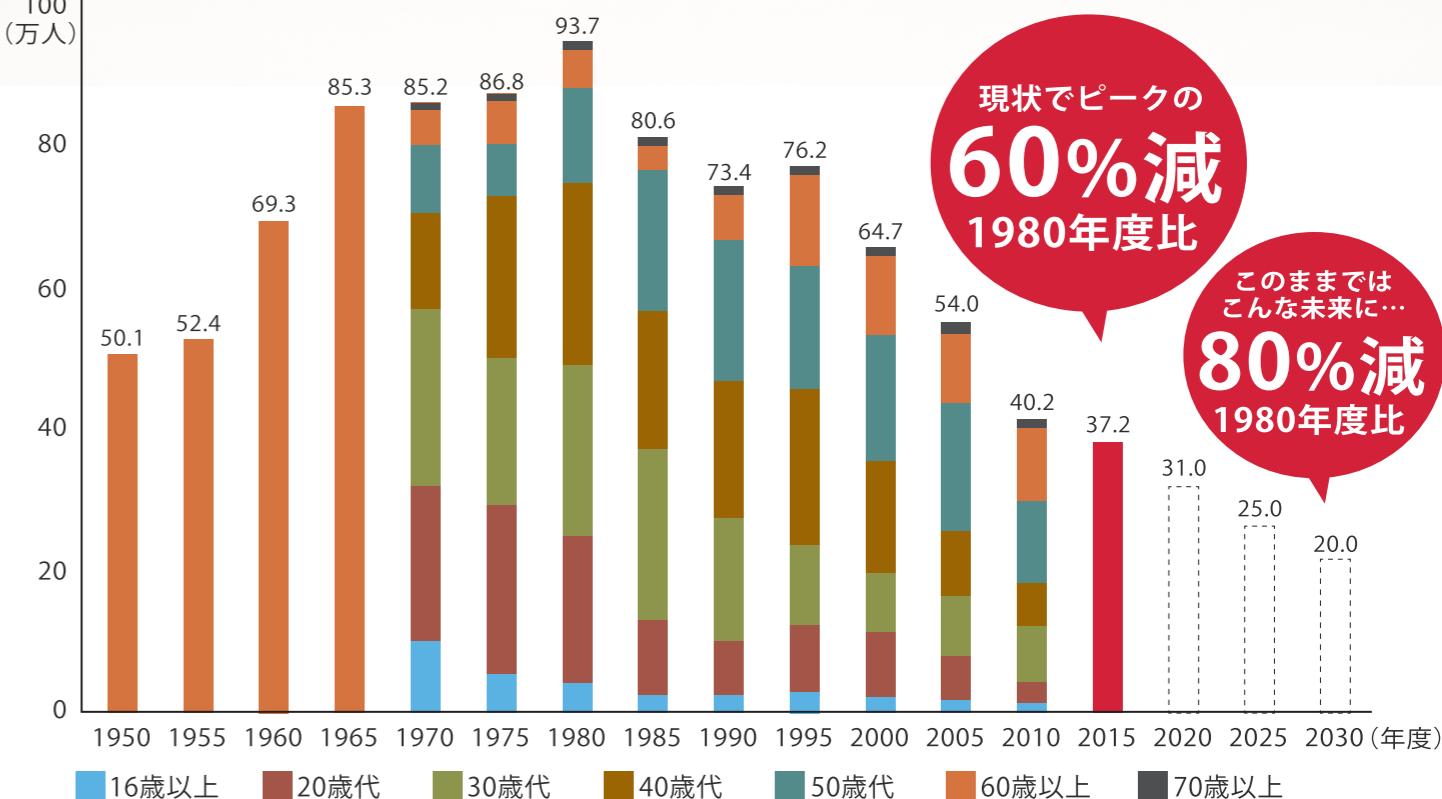
# 需要はあるのに減り続ける「大工」

1980年の約937,000人をピークに、1980年比で「約8割減」になる!?

2030年には約200,000人に減ると予測される「大工の就業者数」

以下の資料は国土交通省の国勢調査を元に「全建総連」が作成した大工就業者数の推移・予測です。これからも必要な、家づくりの要となるべき大工のなり手がいなくなってしまうことに、建築業界は今までにない危機感を覚えています。2000年以降、少子化の影響により、就職年齢人口(15~24歳以下)は5年毎に10~15%ずつ少子化が進行しているなか、大工技能者における就職年齢人口は5年毎に約50%で減少しており、少子化のペースをはるかに上回っています。

## 大工就業者数の推移



現状でピークの  
60%減  
1980年度比

このままでは  
こんな未来に…  
80%減  
1980年度比

※全建総連の組合員約62万人のうち、約14万人が大工。2015年国勢調査では大工は約37万人なので、4割弱が全建総連組合員という計算になる。  
※本資料は国勢調査を参考に全建総連で推計

## 良質で十分な木造住宅生産には、もっと多くの大工の力が欲しい

現在は80~90万戸(新設住宅着工戸数)を40万人の大工で支えています。例えば、上グラフの予測のように2030年に大工人口が20万人となった場合、40~45万戸程度の生産力となり、木造住宅生産に必要な大工を確保できなくなることが危惧されます。

## 現場で必要とされ、長く働き続けられる大工技術者を育てる

近年のプレカット・既製品・電動工具等の普及で、加工技術を修得せず、早期に手間請けで稼げる環境ができました。その弊害として技術習得に重きを置かない一人親方が増えてしまった現状があります。既製品の組立てが仕事の中心となった単能的な一人親方は、30~40代で賃金ピークを迎えてしまいます。本当に役立つ大工技術を習得した、長く働き・稼げるような人材を育てる必要があります。